

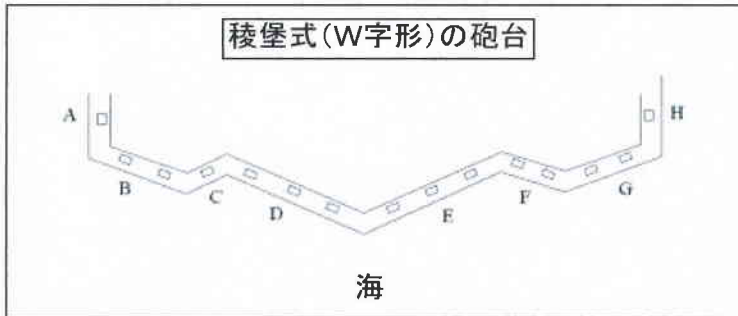
1 舞子砲台跡

垂水区東舞子町2040-4

▶ 舞子砲台は幕命により、文久3年(1863)勝海舟が指導し、明石藩が舞子海岸に築造した砲台です。

工事は備前の谷浅吉と明石の都藤六兵衛の石工2名が請負い、明石藩士がこれを手伝ったとされます。

文久3年(1863)に築造を開始し、元治元年(1864)あるいは慶応元年(1865)に完成します。



砲台は、海岸線に沿って北西から南東方向に全長約70m、奥行14~20mの規模で築かれたようです。

全面総石垣造りで、その石垣は稜堡式石積みと呼ばれる長方形の花崗岩の横積みで、一部の石の表面にはスタレ加工と呼ばれる平行に彫られた何本もの溝が残されています。

現存している石垣は、文久年間に築かれた石垣である可能性が高いようです。

勝海舟による当初の設計では、和田岬砲台と同じく石堡塔を中央にその海側の前面に堡壘を屏風状に築く計画であったようですが、工事が明石藩主体で進むにつれ、中央部の石堡塔を廃して前面の堡壘自体を総石垣造りの2層構造の密閉式石堡塔として完成しました。

大筒が3門据え付けられたとしているものもありますが、何も据え付けないまま明治維新を迎えたようです。

明石藩の砲術師範荻野六兵衛は、この砲台における構造上の欠点を上げ、大砲の設置を拒みました。藩議の結果、勝海舟が荻野六兵衛の意見を取り入れるかたちで、敵弾を防ぐ障壁を増設する工事が決定し、砲台前に土俵を高く積み上げて砲台を包む事となりました。



2 坂本龍馬宿泊の地 左海屋跡

垂水区東舞子町5(ルネ舞子)

- ▶ 文久3年(1863)6月25日、坂本龍馬は旅宿左海屋(さかいや)にて宿泊しています。明石藩日記には次のように記載されています。

「六月廿五日 一今四時迄佐藤与之助舞子へ罷越候二付(途中省略)右之面々罷越土州坂本龍馬 高松五郎 右塚屋へ旅宿申付(以下省略)」

【龍馬宿泊の「左海屋」の絵葉書発見!! 白濱忠信氏著(歴史読本2004年7月号)より抜粋】



左海屋の古写真(提供:白濱忠信氏)



左海屋跡(浜辺より)

3 萬亀楼跡

垂水区東舞子町5(舞子マンション)

- ▶ この舞子には腰掛茶屋が盛んで、萬亀楼(ばんきろう)、左海屋、亀屋などがありました。伊藤博文、井上馨、東郷平八郎などもこれらの旅館に宿泊したそうです。萬亀楼は明治27年に創業した料理旅館です。格式のある佇まいと(当時としては珍しい)生簀料理で好評でした。太平洋戦争が激化する昭和18年、店を閉じています。萬亀楼の一部が現存しており当時を偲ぶ事ができます。



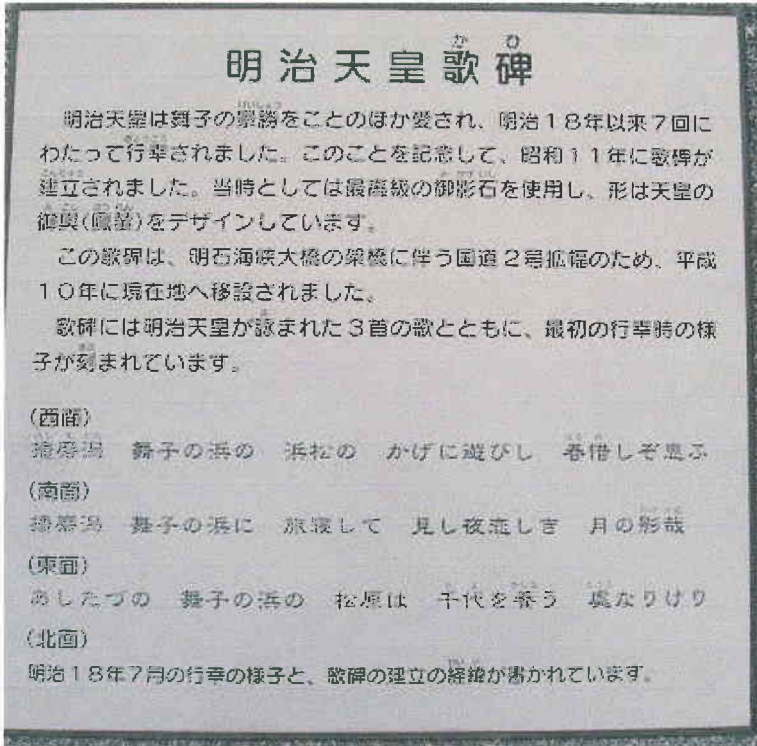
萬亀楼の古写真(提供:白濱忠信氏)



萬亀楼跡

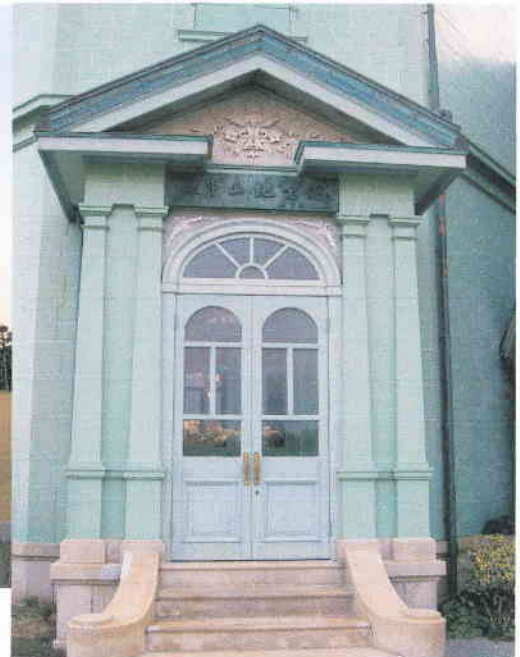
4 明治天皇歌碑

垂水区東舞子町4(公衆トイレ前)



5 孫文ゆかりの地 孫中山記念館(移情閣) 垂水区東舞子町2051

- ▶ 神戸在住の華僑 吳錦堂(ごきんどう)の別荘として大正初期に建てられたものです。吳錦堂は、日本に亡命していた中国革命の父 孫文をここへ招きました。吳錦堂の孫である吳伯瑛が孫文記念館にするという条件で寄付し、昭和59年より孫中山記念館(移情閣)として一般公開されることになりました。



6 有栖川宮別邸跡

垂水区東舞子町18-11(舞子ビラ神戸)

- ▶ 明治21年(1888)、有栖川宮熾仁親王が避暑のためこの地に来られた際、海の景色が気に入り、同26年(1893)に別邸の建造を開始。翌年、病気のためこの別邸で療養されました。療養の甲斐なく熾仁親王は病死しますが、その後も明治天皇や昭和天皇が有栖川宮別邸に宿泊されています。



<有栖川宮熾仁親王>

天保6年(1835)に生まれ、17歳の時、仁孝天皇第八皇女である和宮親子(かずのみやちかこ)と婚約しました。和宮は6歳でした。

文久元年、「公武合体」のため婚約が破棄され、和宮は第14代将軍徳川家茂に降嫁しました。

その後、熾仁親王は急進的な攘夷論者となり、幕府に対し攘夷実行を迫りました。

戊辰の役では東征大総督を務めます。

西南の役では征討総督に任じられ、その功により陸軍大将となっています。

7 和田神社

兵庫区和田宮通3丁目2-45

- ▶ 古来よりこの地を『蛭子の森』と称し、西摂地方における蛭子大神を祭祀した最古の場所です。承安3年(1173)、平清盛が大輪田泊(現在の兵庫津)の築港にあたり、工事の安全と将来の繁栄を祈願し、安芸(現在の広島県)の宮島より市杵嶋姫大神を勧請し7箇所祭祀しました。これを兵庫七弁天と称されます。そうちの1つが和田岬に祀られていました。江戸期に入り万治元年(1658)5月に大洪水が起こり、武庫郡鳴尾村小松(現在の西宮市)に鎮座する岡太神社の神輿が海に流れ、和田岬に流れ着くという出来事が起こりました。尼崎藩主 青山幸利の発願により蓑田佐左衛門を普請奉行として社殿の造営を行います。

